

家庭科学習指導案

題材名「ミシンで楽しくソーイング」〔学指要領：B衣食住の生活(5)ア, イ〕

令和6年9月5日(木) 第2校時 教室
安中市立原市小学校 5年2組 指導者 清水 愛美

I 題材の構想

1 題材の目標及び児童の実態

	目 標	児童の実態
知識及び技能	・製作に必要な材料や手順、製作計画、ミシン縫いによる目的に応じた縫い方及び用具の安全な取り扱いについて理解するとともに、それらに係る技能を身に付ける。	・1学期の手縫いによる小物づくりで、縫う順番や、裁縫用具の名前や使い方は学習している。 ・ミシンを使った経験がある児童は1人。家にミシンがない児童は5割。ミシン縫いに不安を持つ児童が多いため、技能の習得の時間を確保して、目的に合わせてミシンを扱えるようにしたい。
思考力、判断力、表現力等	・生活を豊かにするために、布を用いた製作(ミシン縫い)について問題を見出して課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。	・手縫いによる製作では、手縫いの方法や縫う順番や縫い方の工夫を考える経験をしている。 ・題材の学習計画を立てることで、見通しを持って課題に取り組めるようにしたい。また、毎時間のふり返りを通して、実践の評価や改善に生かせるようにしたい。
学びに向かう力、人間性等	・ミシン縫いによる目的の応じた縫い方について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとする。	・学んだことを家庭で実践してみる児童は9割で、1学期の手縫いの学習後に製作活動をした児童は4人だった。 ・製作活動以外で衣生活について意識しながら生活している児童は3割と少ないため、意欲づけをしていきたい。

2 評価規準

知識・技能	①製作に必要な材料や手順がわかり、製作計画について理解している。 ②ミシン縫いによる目的に応じた縫い方及び用具の安全で正しい使い方について理解し操作が適切にできる。
思考・判断・表現	①生活を豊かにするために、布を用いた製作(ミシン縫い)について問題を見出して課題を設定している。 ②生活を豊かにするために、布を用いた物の製作について、製作計画を考え工夫している。 ③生活を豊かにするために、布を用いた物の製作について、実践を評価したり、改善したりしている。 ④生活を豊かにするために、布を用いた物の製作についての一連の活動について、考えたことをわかりやすく表現している。
主体的に学習に取り組む態度	①生活を豊かにするための布を用いた製作について、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。 ②生活を豊かにするための布を用いた製作について、課題解決に向けた一連の活動をふり返って、改善しようとしている。 ③生活を豊かにするための布を用いた製作について工夫し、実践しようとしている。

3 指導及び評価、ICT活用の計画 ※別紙参照

(4 題材等の価値)

エプロンは、調理や清掃など、家庭の仕事に使用することの多い平面構成の布製品である。また、本校では、給食当番の際に、自分で用意したエプロンを着用するため、使用頻度の高いものとなる。脇、襟、裾と、すべての製作過程において、三つ折りで布端を処理し、ミシンでの直線縫いを繰り返すことにより、ミシンの使い方の習得が望めると考える。さらに、使用目的や使いやすさを考えて、ポケットの位置や向きを工夫することで、自分の体に合ったエプロンづくりにつながる。

II 本時の学習 (1/8)

1 ねらい 身の回りの布製品を観察したり、教師によるミシン縫いの実演を見たりする活動を通して、ミシン縫いのよさに気づき、安全に操作して、生活を豊かにする物を製作したいという意欲につなげることで、題材全体の課題を考え、その課題を解決するための学習計画を立てることができる。

<p>主な学習活動 予想される児童の反応〔S〕</p>	<p>主な発問</p> <p>○指導上の留意点 ◆評価項目（観点）</p>
<p>1 1学期の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。(7分)</p> <p><めあて> ミシン縫いのよいところを見つけ、学習計画をたてよう。</p>	<p>○1学期に学習した手縫いについてふり返し、身の回りの持ち物に手縫いのものはあるか、ミシン縫いのものはあるかを探することで、ミシン縫いに興味を持てるようにする。</p> <p>○教師が実際に、手縫いとミシン縫いを見せることで、違いに気づけるようにする。</p>
<p>2 ミシン縫いの良いところを考える。(5分)</p> <p>ミシン縫いのよいところはどのようなところでしょう？</p> <p>S：じょうぶに縫えるところや、失敗が少ないところかなあ</p>	<p>○手縫いとの違いを考えるよう促すことで、ミシン縫いのよさに気付けるようにする。</p> <p>○電子黒板に、手縫いとミシン縫いのものを並べることで、ミシン縫いのよさを目で見て考えられるようにする。【★拡大表示】</p>
<p>3 班ごとに課題と学習の計画をたてる。(18分)</p> <p>どのようなエプロンを作成したいですか。 また、そのためには、どのような手順が必要ですか？</p> <p>S：縫い目がきれいなエプロンを作りたい。そのためには、ミシンの練習が必要だなあ。</p>	<p>○調理実習で学んだメニューを家庭でも作ったかどうかを想起させる。</p> <p>○調理中や調理して出来上がったものを、家族で振る舞う際、どちらがより素敵かをデモンストレーションして考えさせることで、エプロンづくりへの意欲につなげる。</p> <p>○個別で課題を考える時間をとることで、個々が単元のイメージができるようにする。</p> <p>○思い描いたエプロンを作るために、どのような手順が必要かを考えさせることで、学習計画につながるようにする。【★オクリンク】</p>
<p>4 本時のめあてを確認し、班ごとの話し合いをもとにした、クラス全体の課題と、学習計画を立てる。本時の学習内容を振り返る。(15分)</p> <p><まとめ> *エプロンづくりの課題 【自分の体に合った、きれいで丈夫なエプロンを作るにはどのようにしたらよいでしょうか。】 *学習計画 ①課題設定 ②ミシンの練習(2時間) ③エプロンの計画・作成(4時間) ④試着 ⑤まとめ・振り返り</p>	<p>○班ごとに出た意見を拾い上げ、クラス全体の「エプロンづくりの課題」を設定する。</p> <p>○オクリンクで班ごとに考えた学習計画を表示し、全体の学習計画を模造紙に書いて掲示する。 【★一覧表示】</p> <p>○各班の話し合いの内容やしかたを称賛する。</p> <p>○ふり返りの時間に、今後の学習に対して意欲が持てるよう、全体で共有する。</p>
<p><振り返り> S：ミシン縫いは、手縫いよりも丈夫できれいに縫えることが分かった。自分でも素敵なエプロンが作れるように頑張りたい。</p>	

※

3 指導及び評価、ICT 活用の計画（全 11 時間：本時第 8 時） ※指導に生かす評価○、評定に用いる評価●

時	学習活動	知	思	主
本時 1	ミシン縫いのよさに気付き、生活を豊かにする物を製作したいという意欲につなげる。課題解決するための学習計画と、エプロンの製作計画を立てる。(あ)		②	
2	ミシンを安全に操作できるよう、ミシン縫いの準備やから縫いをする。(い)	● ①	③	①
3	ミシン縫いの直線縫いや返し縫い、角を曲がる方法を学習する。(い)			
4	ミシン縫いの直線縫いや返し縫いで、コースターを作成する。			
5, 6, 7	ミシンを安全に操作して、エプロンを製作する。周りを三つ折りにして縫う。(い)			
本時 8, 9	ポケットを計画する。ポケットを縫う。(い)			
10	製作したエプロンに、名前の縫い取りをする。		③	
家	製作したエプロンを学校の給食当番で使用する。			●
11	エプロンを実際に使用した感想を話し合ったり、題材全体の振り返りをしたりする。(あ)		① ●	④

* 活用する学習支援ソフト・コンテンツ等：(あ) オクリンク (い) デジタル教材

1 研究の概要

本研究では、B(5)生活を豊かにするための布を用いた製作の1時間目を、『はばたく群馬の指導プラン』に基づいて構成した。

はばたく群馬の指導プランでは、「つかむ」過程について、下記の流れを示している。

- 1 生活の中から問題を見いだす。
- 2 本時のめあてをつかむ。
- 3 見いだした問題を基に、題材の課題を立て、学習の見通しをもつ。
- 4 一人一人が本時の学習の振り返りをする。

本研究では、「ミシンで楽しくソーイング」という題材の1時間目を構成した。以下が、具体的な構成内容である。

1 生活の中から問題を見いだす。

本時では、1学期に手縫いを学んだことを取り上げ、手縫いとミシン縫いの違いを観察した。手縫いとミシン縫いの違い（速さ、強度、見た目等）を見るために、実際に教師が手縫いとミシン縫いを時間を計って実演し、縫いあげたものを電子黒板で拡大して映し出した。また、自分たちの持ち物には、ミシン縫いのものが多く、手縫い製品はほとんどないことを取り上げるために、持ち物調べをする時間を設け、ミシン縫いの身近さに気づけるようにした。

2 本時のめあてをつかむ。

1の過程で、ミシン縫いの身近さに気づいた児童たちに、本時がミシンで楽しくソーイングの1時間目であることを伝え、めあてを考える時間を作った。

3 見いだした問題を基に、題材の課題を立て、学習の見通しをもつ。

・ミシン縫いのよさを考える

題材の課題を立てるにあたり、課題がミシン縫いに迫り、より具体的なものになるよう「ミシン縫いのよさ」を考えた。1の過程で教師が縫った手縫いとミシン縫いを見比べたり、身近な布製品を想起したりできるようにした。

・自然な思考で製作品をイメージする。

エプロンを製作するという提案をするにあたり、エプロンを付けている時・付けていない時の様子をデモンストレーションすることで、これからの生活や家庭科で学習した内容に大きく生かせることに気づかせた。児童の自然な思考に合わせてエプロン製作をしたい！と児童自身が感じることで、課題を立てる際により明確な課題を立てることができたと考える。

・学習計画を立てる。

学習計画を立てる際、本題材をどのような流れで学習していく必要があるか、班ごとに話し合う時間を作った。オクリンクを使用し、話し合った内容がすぐに書き換えられたり、作成した計画を電子黒板で並べて比較検討することができたりと、非常に便利だった。

4 一人一人が本時の学習の振り返りをする。

本題材を学習するにあたり、学習内容や個々の成長過程が一目でわかるよう、ふり返し用紙は1枚のワークシートに毎時間まとめられるようにした。振り返りの記入欄には、「本時のわかったことや気づいたこと」、「友達から学んだこと・次時にむけての展望」等を記入できるようにした。また、ミシンの具体的な技術が身についたかチェックする欄や、休み時間にも製作に取り組めた児童へのスタンプラリー欄も作り、充実した振り返り活動を行うことで、個々の自信にもつながるように努めた。

2 研究授業の記録

教師の発問・生徒の反応

1 1学期の学習をふり返り、本時の目当てをつかむ。

T: 1学期には、手縫いを勉強してきました。みなさんの持ち物に手縫い物はどのくらいありますか？

S: ミシンのものはあるけど…

S: 1学期に作ったテッシュケースならあります！

T: じゃあ、ミシン縫いでできているものはありますか？

S: 給食セットだ！

S: 手提げバック

S: 体操着もミシンです！

T: たくさん見つけられましたね。では、どうしてミシン縫いのものの方が多いのかな？

S: ミシンのほうが速い！

S: ミシンの方がきれい！

S: ミシンの方が正確！

T: 本当に速い？きれい？正確？

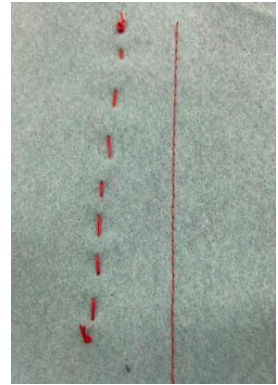
先生は手縫いも、速く、きれいに、正確にできる自信があるよ？

実際に手縫いとミシン縫い、比べてみよう！

S: すごい速い！

S: 縫い目も全然違う！

S: ミシン使ってみたい！



T: そうだね、2学期は、実際にミシン縫いに挑戦していきましょう。

ミシンで楽しくソーイングの1時間目が今日ですね。今日のめあては、ミシンについてどのようなめあてだとよいでしょう。

S: ミシンのよいところを見つける

S: 1時間目だから見通しを立てる

S: 課題を見つける

〈めあて〉ミシン縫いのよいところを見つけ、学習課題を立てよう

2 ミシン縫いのよいところを考える。

T: ミシンのよいところは？どんなところででしょう。先ほどの手縫いとミシン縫いで縫った布を比較して考えてみましょう。(電子黒板に拡大鏡で映し出す)

S: 速い S: 丈夫

S: 縫い目がきれい S: 長持ちしそう

3 題材の課題と学習の計画を立てる。

T: みなさんが気づいてくれたミシンのよさを生かして、何か製作をしようと思います。1学期に勉強したことに生かせるものを作りたいと思います。

S: 1学期はお茶を淹れた

S: 調理実習や整理整頓も勉強した

T: お茶を淹れる時をイメージできるように、実際にお茶を淹れるところを誰かにデモンストレーションしてもらおうかな。

S: (おぼんに、ポットとコップを持って廊下から登場)「みんな、お茶を淹れたよ！」

S : (同じ児童に、エプロンと三角巾をしてもらって同じように登場)「みんな、お茶を淹れたよ！」

T : 最初と2回目だとどんな違いがあったかな？

S : エプロンを着てた！

S : エプロンがあると、丁寧な感じがする

S : コップの下に何か敷いてある！

S : 清潔で素敵



T : いろいろなことに気づけましたね。2学期は、みんなでエプロンを作ってみよう！

T : エプロンを製作するための課題を考えてみましょう。どのようなエプロンを製作したいでしょうか。(ワークシートを配布し、個別で数分間、課題を考える。)

S : 丈夫なエプロンを作りたい S : かわいいエプロンが作りたい

S : ポケットを付けたい S : 体にぴったりのエプロンが作りたい

〈学習課題〉 丈夫で便利な自分の体にぴったり合うエプロンを作るにはどうしたらよいか。

T : では、この学習課題に向けて、明日いきなりエプロンを縫おう！ということではよいでしょうか？

S : ミシンの使い方がわかりません！

T : そうですね、急にエプロン作製は難しいね。では、今日は次回のために何をしたらよいか？

S : 計画が必要です

S : ミシンの使い方を覚える

S : 練習する

T : 良いところに気づけたね。今日は、素敵なエプロンが出来上がるように、班ごとに学習計画を立てよう。(学習班でオクリンクを使って、計画を立てる。)

S : ミシンの使い方を覚える

T : 話を聞いて、覚えるだけで本番のエプロンづくりができそう？

S : 練習をして試そう

S : 「エプロンを作る」の後に完成！って書こう。



T : エプロンを作った後は、どうする？

S : ふり返りで感想書こう

S : その前に、一回着てみたくない？



4 クラス全体の課題と、学習計画を立てる。

T : 班ごとに話し合った計画を見比べて、クラス計画を作ろう！

S : 1班のミシンの使い方を知るだけじゃなくて、練習が入っているのが**よい**と思います。

S : エプロンを作った後の、実際に着てみる時間があるのは、賛成です。

S:一番最後は、ふり返りで終わりたいです。

- 〈学習計画〉
- ① 課題設定
 - ② ミシンの使い方・練習
 - ③ エプロンの計画・作成
 - ④ 試着
 - ⑤ まとめ・ふり返り

<ol style="list-style-type: none"> ② 布を選ぶ ③ ミシンの使い方を知る・練習 ④ エプロンを作ってみる ⑤ 実際に着てみる 	<ol style="list-style-type: none"> ①課題設定(計画) ②ミシンの使い方を覚える・エプロンの作り方の手順を確認する ③エプロンを作る ④エプロンを使う ⑤エプロン作りを振り返る 	<ol style="list-style-type: none"> ① 計画作り ② ミシンの使い方を覚える ③ 練習する ④ ミシンを使ってみる ⑤ エプロンを作る
<ul style="list-style-type: none"> ● 課題設定 (計画) ● ミシンの使い方を覚える! ● エプロンをつくる! ● 使ってみる! 	<ol style="list-style-type: none"> ①計画 ②使い方 ③練習 ④実際に作る ⑤実際に着る 	<ol style="list-style-type: none"> ②ミシンの使い方を覚えよう (練習) ③エプロンのパーツを分ける ④エプロンを作ろう ⑤完成

○ふり返り

T: みなさん、しっかりと意見を出し合って学習計画が立てられたね。

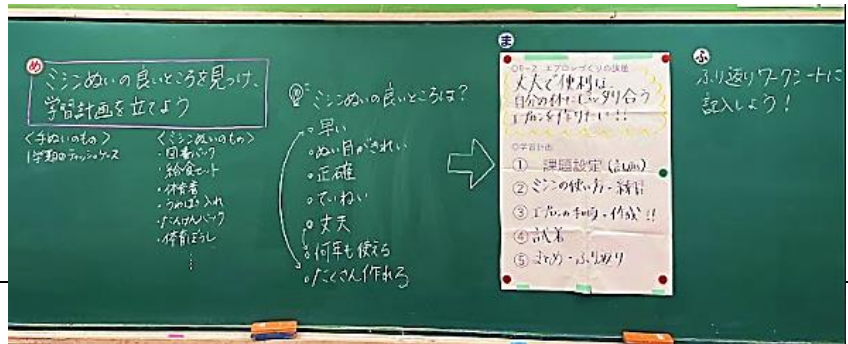
本時のふり返りシートに、ふり返りを書こう。

〈児童のふり返り〉

T: 発表してくれる人はいますか。

S:

S:



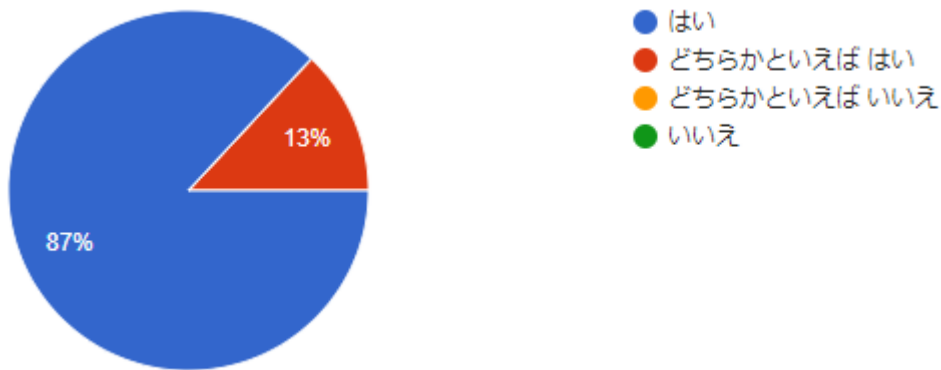
3 研究成果

○本研究を行うにあたり、題材の1時間目（本時）についてのアンケート調査と、事前・事後のアンケート調査を行った。

【1時間目（本時）についてのアンケート調査】

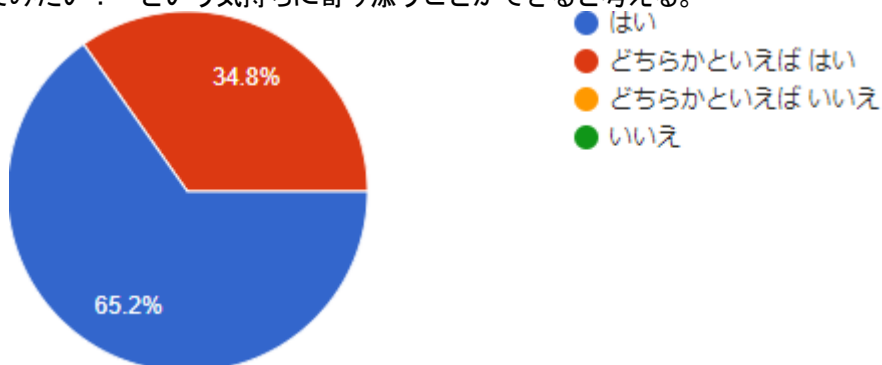
① 手縫いとミシン縫いのぬい目を比べたことで、「ミシンのよさ」はわかりやすかったですか？

本質問に対して、「はい・どちらかといえばはい」の児童は100%だった。実演して縫うスピードが違うことに気づけたり、拡大して縫い目を観察したりすることは、児童にとって有効といえる。



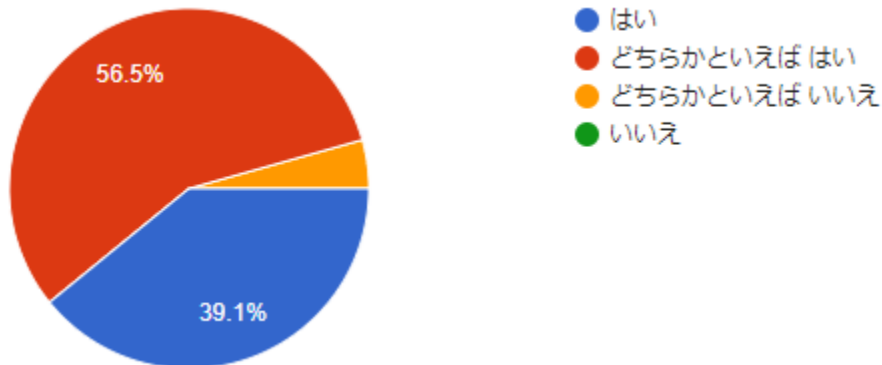
② エプロンやコースターが有り・無しでお茶を出すデモンストレーションをしたことは、エプロンを作りたいという気持ちにつながりましたか？

本質問も、①と同様、授業者から唐突に「エプロンを作ろう！」というよりも、児童の自然な思考に合わせ「作ってみたい！」という気持ちに寄り添うことができる！と考える。



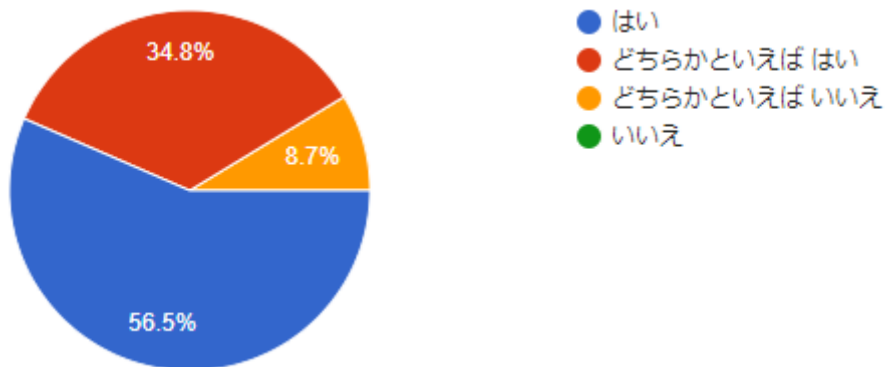
③ エプロンづくりの学習課題をみんなで一つ立てたことで、計画を立てるときや、製作するときの目標に役立ちましたか？

本質問には、「はい・どちらかといえばはい」との回答者が95.5%であった。しかし、「はい」と答えた回答者は39.1%に留まった。家庭科の題材構成の中で学習課題を立てて学習することを、何度も何度も繰り返すことで、児童全員が学習課題に立ち返りながら学んでいくスタイルに慣れていく必要がある。また、授業者は、題材の1時間目に学級の「学習課題」を立てることで、その後の授業を考えていくときに、スムーズな流れや課題解決していくための手立てを作りやすいと感じた。



④ 学習計画を立てたことで、その後のエプロンづくりの流れがわかりやすくなりましたか？

本質問に「はい」と答えた児童は56.5%だった。1時間目に立てた学習計画を家庭科室に大きく貼り出し、児童自身がどのように学習が進んでいくかわかるようにしたことで、「先生、次は何をしますか？」と聞いてくる児童が大幅に減り、見通しをもって取り組む児童が増えた。

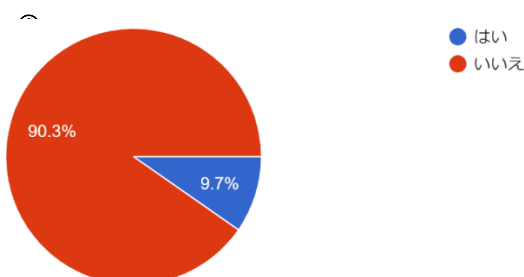


【事前・事後のアンケート調査】

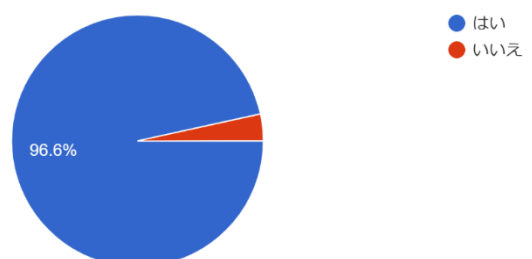
① 「ミシンを使ったことがありますか？」

本質問に対して、実際に使用したことのある児童は3名で、ほとんどの児童がミシンが未経験ということが分かった。本題材で、ミシンを全員が使用し、96.6%もの児童が、「またミシンを使ってみたい」と回答した。このことから、充実した製作が行えたと考える。

ミシンを使ったことがありますか？ はい→3名



またミシンを使ってみたいですか？ はい→96.6%



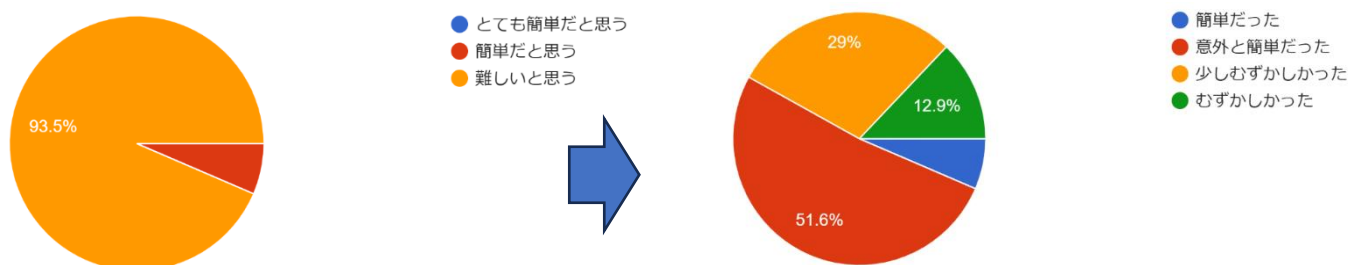
②「ミシンを使うことは簡単だと思うか」

本質問に対しては、93.5%の児童が「難しい」と感じていたが、本題材を終えた児童は、58.1%が「簡単だった・意外と簡単だった」という回答だった。残りの半分弱の児童も、ミシン縫いを身近なものと感じて挑戦してくれるよう、称賛して次学年につなげたい。

ミシンを使うことは簡単だと思いますか？

「簡単だった」または「意外と簡単だった」→58.1%

難しいと思う→93.5%



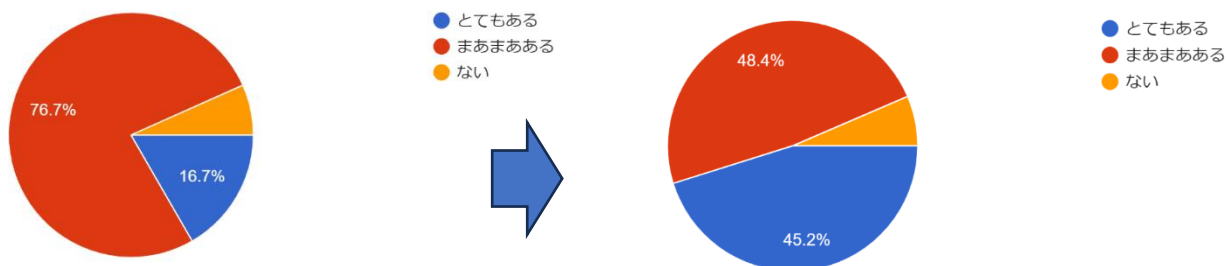
③「ミシンを使ってもものづくりすることに興味はありますか？」

本質問に対しては、16.7%の児童が“とてもある”という回答だったが、本題材を終えた児童は、45.2%と大きく増加を見せた。目的をもって一人一人がエプロン製作に向き合うことで、さらに興味を膨らませる結果となったことは題材の価値として値するであろう。その結果、「ミシンを使って作りたいものはありますか？」という問いも増加を見せ、具体的な展望を各々が持てたことは、生活に根付く教科として成果といえる。

ミシンを使ってもものづくりすることに興味はありますか？

とてもある→16.7%

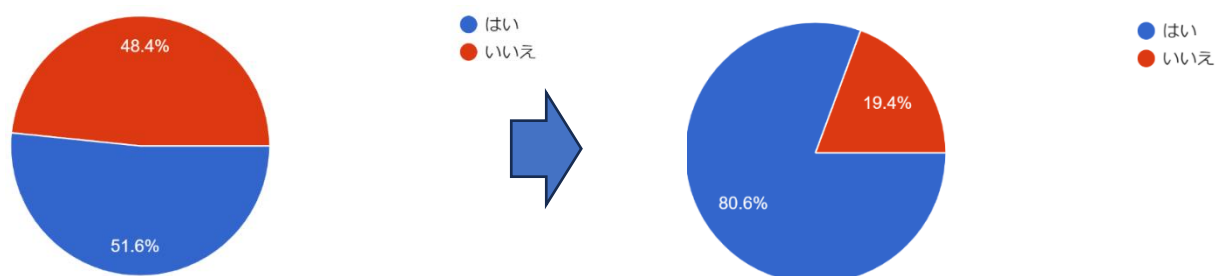
とてもある→45.2%



ミシンを使って作りたいものはありますか？

はい→51.6%

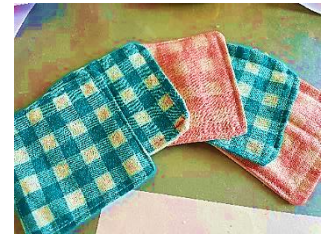
はい→80.6%



4 題材に関わるその他の取り組み

☆4時間目

ミシンの練習の後、試作にコースターづくりを行うことで、ミシン縫いで自分だけのものを作る良さに触れることができた。



☆6時間目

この授業は、安中市教育委員会指導主事にも、指導案検討と授業参観、授業検討会でご指導いただいた。

II 本時の学習 (6/9)

1 ねらい エプロンのポケットに着目し、便利さや丈夫さについて考える活動を通して、自分で製作することの面白さや、留意点に気づくことができる。

主な学習活動 予想される児童(生徒)の反応〔S〕	主な発問	○指導上の留意点 ◆評価項目(観点)
<p>1 前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。(5分)</p> <p>S: 前回までで、三つ折り縫いやアイロンの使い方を覚えたな。</p> <p>S: ハンカチや三角巾に入れられるように、ポケットが欲しいな。</p> <div data-bbox="124 958 727 1084" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><めあて> ポケットの位置や大きさを考えて、便利なポケットのアイデアを出し合おう。</p> </div>		<p>○前時までの振り返りを行い、エプロン製作のどの段階まで来たのかを確認する。</p> <p>○単元の1時間目にクラスで決めた学習課題「丈夫で便利な自分の体にぴったり合うエプロンを作るにはどうしたらよいか。」をふり返し、便利なエプロンに必要なものを考えられるようにする。</p> <p style="text-align: right;">【★拡大表示】</p> <p>○ポケットにはどのような物を入れたいか、ポケットを付けるなら、どのようなポイントに着目したらよいかを問いかけ、本時のめあてを考えられるようにする。</p>
<p>2 使いやすいポケットの位置について考える。(10分)</p> <div data-bbox="124 1151 727 1211" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>使いやすいポケットの付け方について考えよう。</p> </div> <p>S: どの位置にポケットがあると便利かなあ。胸のポケットにメモ帳が入れられるといいな。</p> <div data-bbox="124 1312 727 1415" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>学んだことを生かしたポケットを付けるには、どのようなポイントが必要か考えよう。</p> </div> <p>S: ポケットを付ける前に、飾りをつけなければな。</p>		<p>○手書きでポケットを書き入れる活動をする中で、具体的にイメージできるようにする。</p> <p>○ポケットには、位置だけではなく、向きや、ポケットの数もあることに気づいた児童の言葉を拾い、全体に助言する。</p> <p>○学んだことを生かしたポケットを考えられるよう、「便利さ」や「丈夫さ」に着目できるよう声掛けする。</p> <p>○どのような手順でポケットを付ける必要があるか助言することで、付ける時のポイントをイメージできるようにする。</p>
<p>3 班ごとに考えたポケットを発表し合う。(20分)</p> <p>S: ポケットには、三つ折り縫いができると丈夫なポケットになるな。</p>		<p>○同じ位置や、サイズのポケットを考えた児童ごとに班を組み、自分の考えがより深められるようにする。</p> <p>○ポケットの仕組みが学べるよう、実物を用意して、観察できるようにする。</p> <p>○ポケットをつける際のポイントや、手順を発表することで、位置や向きの違いがあることに気づけるようにする。</p>
<p>4 本時のめあてを確認し、本時の学習内容をまとめ、振り返る。(10分)</p> <div data-bbox="124 1955 727 2125" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><まとめ> ポケットは、様々な位置や大きさがある。ポケットをつける手順や、ポイントを生かして、便利なポケットをつけよう。</p> </div>		<p>○ほかの班の発表に触れることで、様々なアイデアがあり、自分で製作することの面白さに気づけるように投げかける。</p> <p>○各班の活動について称賛する。</p> <p>○ふり返しシートの項目を分けることで、より深くふり返ることができるように工夫する。</p>

<振り返り>

S：ポケットの位置や向きが自分にあったものにできるとうれしい。次回は、しっかりとポケットを付けていきたい。

【成果】

- ・1時間目にて学習課題を子供たちと共に作ったことにより、軸をしっかりと持つことができた。そのため、本時のめあてを考える際や、ポケットを考える活動の中で、学習課題に立ち直って進めることができた。
- ・ポケットを考える活動では、学習班ではなく、同じ考えや似た考えを持つメンバーで班を決めたことで、アイデアを出す話し合いがスムーズに行えた。
- ・実物のポケットがあるため、イメージがしやすかった。
- ・ポイントやまとめの言葉が、子供たちの口からしっかり出ていてよかった。

【課題】

- ・授業者が話過ぎてしまった。
- ・時間内に活動を納められなかった。
ポケットの形ごとにグループ分け
→人数バランスや話し合い内容の難しさ
→発表はグループの状態のほうがよかったのでは
⇒しかし、児童自身が自分の話し合う班を選択することも、自己決定する力が養われ、意欲的な話し合い活動につながるために、積極的に取り入れていきたい。

○ワールドカフェ

メンバーの組み合わせを替えながら、4～5人単位の小グループで話し合いを続けることで、あたかも参加者全員が話し合っているような効果が得られる会話の手法。

○知識構成型ジグソー法

ある問いに対し複数の視点から書かれた資料をグループに分かれて読み、その後、他のグループの人と共有し合うプロセスを経て、理解を深めます。

- ・教師が拍手をしていたが、子供たちから主体的に拍手が起こるような授業を心がける
- ・振り返りが入るように・・・時には、振り返りを書く時間を省き、全体で発表時間をとることも必要

○ねらい・めあてに迫った授業展開

話し合い活動をする際に、話し合う内容が「ポケットを作成する際のポイント」なのか、「ポケットを付ける際の手順」なのかがぶれてしまった。そのため、班ごとに話し合い内容に差ができてしまい、話し合ったことをまとめる際に、まとめが難しく、時間が多くかかってしまった。

授業者が、ねらいに最も近づく話し合いができるよう、視点を明確にすることが必要。

○時間内に深め合える活動内容

時間内に、充実した授業内容にするために、事前の準備が必要となる。本時であれば、あらかじめ、ポケットを個々で考える活動は家庭学習にすることも一つの案であった。家庭生活に根付いた教科ということもあり、家庭との連携をとることで、生活をよりよいものにするにつなげると考える。

夏の小学校家庭科部会において、「家庭科題材授業づくりについて」と題して中里指導主事からご指導をいただいた。指導主事の講義をもとに、2学期からの家庭科をどのように組み立てていくのかを考える本研究は、自身の授業研鑽に大変学びの多いものであった。

特に、“つかみ”の部分にあたる、題材の1時間目は、児童が問題意識をもって題材に取り組むために、最も大切な授業になると感じた。児童の自然な思考に合わせて課題をつかみ、課題解決の道すじとなる学習計画を立てることは、児童にとっても、授業者にとっても、その後の授業展開が明確になった。

本研究を行うにあたり、講義をいただいた中里指導主事、指導案検討や授業参観、授業検討会でご指導をいただいた指導主事をはじめ、多くの先生方に大変お世話になりましたこと、感謝いたします。今後も、本研究での学びを生かし、家庭科の授業づくりをさらに深めていきたい。また、どの先生が家庭科を担当しても、題材ごとの授業づくりをスムーズに行えるようなスタイルを提案し、学校全体の家庭科の授業向上に努めていきたい。